

台湾における現地情報

2022年 8月 12日

株式会社フェアコンサルティング

坂下 幸紘

【台湾での新型コロナウイルス感染・対応状況】

台湾では、感染者数が一時は9万人ほどにまで増加しましたが、6月をピークに徐々に減少をはじめ、8月11日時点での一日の感染者数は2万人前後となっています。現時点で台湾政府は現状の対策を継続するとの見解を取っています。

【台北駐日経済文化代表処でのビザ申請予約について】

8月より代表処でのビザ申請の予約について、月～木曜日の間のみ、先着60組のみという限定付きで予約が必要となりました。

【台湾渡航時の陰性証明について】

7月14日より台湾人または有効な居留証を所持している外国人に限り、台湾に入国する際に求められていたPCR検査の陰性証明が不要となりました。有効な居留証を持たず、出張等を目的として停留ビザを取得し渡航する場合は、引き続き「搭乗日含まず2日以内」に検査した陰性証明が必要となります。

【台湾出張中に新型コロナに感染した場合について（先月から更新）】

先月号同様、日本から台湾に来る出張者が増えている中、台湾滞在中に新型コロナウイルスに感染し、隔離を余儀なくされ、停留ビザの期限内に日本に帰国できないケースが一部で見られます。その場合、以下の2通りの対応方法があります。

- 移民署にてビザ延長対応依頼

移民署の見解では、PCR検査の陽性反応が出た場合、隔離期間7日＋自主健康管理期間7日＋予備期間5日の合計19日間はやむを得ない事情として、ビザ期間を超えていても、台湾滞在が認められるとの見解を出しています。そのため、停留ビザの期間内に出国できない可能性がある場合は、移民署にて事情説

・感染者・死亡者速報通知(2022年8月11日付)



明を行い、パスポートに期限延長を示す日付押印対応を行ってもらう方法があります。

しかし、陽性反応が出続けてしまい、この 19 日間の期間内での出国ですらできないケースが見られます。その場合も同様に移民署に個別に事情を説明し、さらなる期間の延長を交渉する必要がありますが、担当者により見解が分かれる可能性があるため、確実ではありません。

● 日本台湾交流協会にて領事レター発行

日本台湾交流協会にて、陽性でありながらも無症状、またはすでに症状が回復しており、他者に感染させるリスクが低いことを条件として、領事レターを発行してもらうことで、陽性であっても飛行機への搭乗が認められる可能性があります。

<申請に必要な書類>

- ・PCR 検査の陽性証明書
- ・医療機関による回復証明書（診断書）英文

「無症状で、他者に感染させるリスクが低く、渡航は問題ない」、「既に新型コロナから回復した」といった内容が記載されている必要あり。

- ・パスポートコピー
- ・搭乗予定のフライト情報（日時、発着空港、航空会社、便名）

領事レターの発行には日数が必要なため、搭乗日数まで余裕を見ておく必要があります。また、入手できたとしても必ずしも飛行機への搭乗が認められるわけではなく、各航空会社の判断に委ねられているため、搭乗予定の航空会社に事前に確認を行っておく必要があります。

上記のような方法はあるものの、日本政府が日本入国の条件に PCR 検査の陰性証明書を指定している現状においては、予定していたスケジュールで帰れないリスクや、想定していない滞在費用、航空券の取り直しなど追加費用が発生するリスクがあります。さらには停留ビザの期限ぎりぎりまでの台湾滞在はなるべく避けた方がよいと言えるでしょう。

【ノービザ滞在の再延長措置について】

2022 年 8 月 5 日に内政部移民署は 2020 年 3 月 21 日以前に台湾に合法的に入国し、滞在期間が 180 日を超える場合は、30 日間の滞在期間延長（26 回目）を発表しました。延長には特段の手続きは不要であり、自動で延長されます。これにより既に台湾にいながら本来の滞在期間が過ぎてしまっていた外国人は、引き続き台湾滞在が可能です。ノービザ延長措置で滞在している日本人は自身がいつまで滞在可能か再度確認することをお勧めします。

〈台湾 連載コラム〉

通信 No. 3

ウクライナ戦争や最近のペロシ米下院議長の台湾訪問を受けて、台湾海峡危機がにわか
に脚光を浴びています。実際に将来武力衝突が起こるのか、起こるとしたらいつなのか、
それは誰にもわかりませんが、そのような事態を想定した企業の対応について質問を受
けることが多くなってきています。

そんな中、今回の事態を受けた台湾人の反応は様々です。若い人を中心に将来を心配し
て海外移住を検討したり、改めて国防を意識したという感想も少なからず耳にしますが、
一方で多くの台湾人からすると、大陸とのつばぜり合いは昔から今までもずっとあった
という認識でおり、「またか・・・」という反応で、表向きは冷静なように見えます。今回
ペロシ氏の訪台を受けて中国が行った軍事演習も、ちょうど一回目のミサイル打ち上げ
があった日が旧暦の情人節(≒バレンタインデー)にあたり、ある台湾人の友人は「高価
な打ち上げ花火で情人節を祝ってくれているんだよ」と冗談交じりで笑い飛ばす様子も。
国共内戦以降、数十年に渡って対立してきた兩岸関係。ニュースで見る台湾とは違い、
現地にいる人は案外呑気だということと言えるかもしれません。

それが直接危険にさらされている人にありがちな正常性バイアス（日常の延長上の出来
事と捉えて事態を過小評価すること）でないことをただただ願うばかりですが。

フェアコンサルティング台湾
(正緯管理顧問股份有限公司)

台北市松山區民生東路3段128號7樓之1
保富金融大樓
電話：+886-2-2717-0318
担当：坂下 (SAKASHITA)
yu.sakashita@faircongrp.com